

第3学年 体育科学習指導案

ろ組 男子17名 女子17名 計34名
指導者 須藤 信司

- 1 単元 ルールを工夫したゴール型ゲーム（タグラグビーを基にしたゲーム）
- 2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでの「ボール運びおにあそび」の学習を通して、友達と連携して相手をかかわす動きなどを身に付け、相手の動きに応じて走る方向を判断し、走り抜ける喜びを味わっている。そして、「いろいろなボール運動を楽しみたい」「友達と協力してゲームに勝ちたい」などの思いや願いをもっている。

そこで、ここでは、空いている場所を見つけて移動したり、味方にパスをしたりしてボールを運ぶ動きを身に付けていく。また、みんながゲームを楽しめるように規則を工夫したり、パスの仕方を工夫したりすることで、ゴール型の楽しさを味わわせようとするものである。

この学習で経験した、空いている場所を見つけて移動したり、味方にパスをしたりする動きは、パスを受けてシュートする動きを身に付けて運動を楽しむ第3学年の「セストボールを基にしたゲーム」（360度のゴール）や第4学年の「ハンドボールを基にしたゲーム」（180度のゴール）の学習へと発展する。

(2) 指導の基本的な立場

「ゴール型」のおもしろさは、攻守が入り交じる中で、ゴール付近にボールを移動させるために、パスをつないだり、ボールを保持したまま守りを突破したりしてシュートし得点するところにある。また、より多くの得点を獲得するために、チームで連携し、ボールを効率的に運ぶ作戦を工夫することで楽しさが深まっていく。

第3学年の「ルールを工夫したゴール型ゲーム（タグラグビーを基にしたゲーム）」は、ゴールゾーンまでボールを運び得点を重ねる中で、「投げる」「受ける」「運ぶ」といったボール操作をしたり、ボールを持ったときに体をゴールに向け、空いた場所に走り込んだりする動きを身に付ける学習である。そして、課題を解決するために、規則や攻め方を工夫しながら運動を行い、全員がゴール型の学習を楽しめるようになる。

このゴール型のゲームのおもしろさを味わわせるためには、まず攻撃側がゲームを優位に展開できるように3対2で、ボールを持って相手の守りを走り抜けることで突破し、得点を重ねていくゲームを行わせる。そして、「みんながゴールゾーンにボールを運べるようになりたい」などという願いをより強くもたせるために、初得点ボーナスや個に応じたタグの大きさなどの規則を設定する。

そこで、学習の展開としては、まず、絵図資料やビデオなどから運動の仕方を理解させ、はじめの規則を確認する。そして、試しのゲームに挑戦することで「みんなが得点できるゲームがしたい」という願いをもたせ、自分やチームの課題となる動きを把握させる。さらに、課題解決を図るために自分やチームの課題に合った規則や練習の場を選び、学習していく見通しをもたせる。単元の前半では、まず、得点化の工夫などパスの必然性が増す規則を工夫させたり、「投げる」「受ける」動きを高める練習を位置付けたりする。後半では、得点をさらに重ねられるようになるために、空いた場所を意図的につくる動きやボールを持っていない人がどこへ移動するかなど、簡単な作戦をチームで話し合わせる。そして、話し合った作戦を基に、走り抜ける方向や味方同士が連携した動きをチームで伝え合わせながらメインゲームを行わせることで、チーム全員がゴールゾーンに走り込めることができるようにさせる。最後に、タグラグビー大会を行い、動きの高まりや楽しさの深まりを振り返らせ、課題に応じて練習を工夫したことや友達と協力し合うことで目指す動きを身に付け、運動を楽しめた過程を価値付ける。

この学習を通して、子どもたちは、課題に応じた規則や動き方を工夫し、練習を繰り返したり、よくなった動きを見付け合ったりすることで、チームで連携しボールをゴールゾーンに運ぶイメージを追加・修正し、動きを高めることができる。さらに、自分の動きが高まったことを実感する喜びを感じ、ゴール型のゲームとの関わりを一層深めることができる。

(3) 子どもの実態 (調査人数は34名, 調査結果は主な項のみ表掲)

① タグラグビーに対する興味・関心

やってみたい	33名	○楽しそう (18名) ○ボールを運ぶ緊張感を味わいたい (7名) ○友達と仲良くなりしたい (6名) ○上手になりたい (2名)
やりたくない	1名	○タグを取られたくない (1名)

② 学習のめあてについて (複数回答)

○パスをたくさん回したい (15名) ○タグを取られないようになりたい (12名) ○協力してボールを運びたい (8名) ○仲良くしたい (5名) ○ルールを守りたい (3名)

③ みんながタグラグビーを楽しむためのルールの工夫 (複数回答)

○敵の人数を減らす (10名) ○ボールを前に落としてもプレーを続ける (6名) ○タグを獲ったら1点 (5名) ○敵が入れないところをつくる (3名) ○コートを広くする (2名) ○コートを狭くする (1名) ○分からない (15名)

④ ボール操作のコツについて (複数回答)

【投げる】○合図を受けて投げる (タイミング・8名) ○ねらいを決めて投げる (方向・6名) ○敵がいなくて投げる (位置・5名) ○分からない (5名)
【受ける】○両手で捕る (タイミング・11名) ○合図を出す (タイミング・9名) ○ボールをよく見て捕る (位置・5名) ○分からない (9名)
【運ぶ】○思い切り走る (力の入れ具合・12名) ○相手がいないところに走る (位置・9名) ○よけながら走る (姿勢・4名) ○分からない (12名)

⑤ 技能について

	ねらった場所に投げる	正面にきたボールを捕る	ボールが飛んでくるコースに入る	空いた場所への移動	ボールを持たないときの移動
できる	21名	26名	15名	20名	9名
できない	13名	8名	19名	14名	25名

本学級の子どもたちは、①の興味・関心については、「タグラグビーは楽しそう」「ボールをゴールへ運ぶ緊張感を味わいたい」などの理由から、タグラグビーをやってみたいという子どもが多い。反面、「タグを取られたくない」という理由でやってみたくないと答えている子どももいる。これは、既習経験において成功体験があまりなく、学習への意欲をもてないでいると考えられる。

②の学習のめあてについては、「パスをたくさん回したい」「タグをとられないようになりたい」など、パスを工夫したり、自分で走ったりして守備を突破してゴールに近づく緊張感を味わいたいという思いが強い。これは、友達と協力したり、自分の動きを高めたりして守りを突破し、ゴールする楽しさを深めていくことに関心が高いからだと考えられる。

③のみんながタグラグビーを楽しむための規則の工夫については、「敵の人数を減らす」「ボールを前に落としてもプレーを続ける」など攻撃が優位な状況でゲームを行い、ボール操作の規則を軽減し、ボールを運んで点数を捕ることに工夫に意識が向いている。また、「タグを獲ったら1点」といった守備側の意欲を高める工夫にも意識が向いている。一方、「分からない」といった意見もある。これは、規則を工夫してゲームを楽しむ学習が未経験であることやゴール型の特性を十分に触れられていない友達への配慮に意識があまり向いていないことが考えられる。

④のボール操作のコツについては、タイミングといった観点を基に、ボールを「投げる」「受ける」動きについての意識が高い。また、「相手がいないところに走る」「敵がいなくて投げる」など守備の位置を意識して攻撃を組み立てることを意識できる子どももいる。これらは、これまでの学習経験からそれぞれの動きについての分析ができていると考えられる。

⑤の技能について、ボールが飛んでくるコースへの移動では、半数以上の子どもができなかったり、ボールを持たないときにほとんど動かず、味方がタグを獲られてもすぐにボールを受けることができない子どもが4分の3程度いたりする。これらは、これまでの学習や日常生活の中で、ボールの軌道を読み、ボールが捕れる位置へ移動する経験があまりなかったり、ボールを効率的につなぐ必要性をあまり感じていなかったりすると考えられる。

(4) 指導上の留意点

- ア 「つかむ・見通す」段階では、まず目指す動きを理解させるために、ゲームの様子が分かるビデオや絵図を提示し、得点の方法や反則などのはじめの規則を確認させる。次に、個人の思いや願いを基にした話合いから学習計画を立てさせる。その際、みんながゴールゾーンに走り込めるチャンスがあるゲームにすることを共通の課題として設定する。そして、自分の動きの課題をつかませるために、目指す動きのイメージと自分の動きを比較させ、動く感じをつかむ観点を基に、動きの差異点に気付かせる。
- イ 「挑戦する・工夫する」段階では、まずみんながタグラグビーを基にした規則を工夫したり、「投げる」「受ける」といったパスの動きを高めるドリルゲームを位置付けたりする。次に、「ボールを受けた時の体の向き」「ボールを受け易い位置への移動」などの動くイメージを追加・修正する話合いの場を設定し、グループで声を掛け合わせながらメインゲームに挑戦させる。その際、学習意欲を継続させるために、子どもたちの課題が個人の動きから集団の動きへと連続・発展させるように、学習内容を設定していく。また、よい動きを見せたり、コツを伝え合わせたりするために、1班4～5人の動きの高まり具合が異なるグループを編成し、協力して練習方法を工夫させたり、課題がうまく進まない子どものためにアドバイスをさせたりする。
- ウ 「生かす」段階では、単元の学習を生かして、タグラグビー大会を実施する。その中で、自分の動きの高まりを実感させるために、学習前と学習後の得点の入り具合や相手の守りを突破する動きを比較させ、どのような活動が動きを高めたのかを振り返らせる。

3 目 標

- (1) 「ゴールゾーンに走り込んで点を決めたい」「チームで相手の守りを突破したい」などの願いをもって、友達と協力し合って粘り強く練習することができる。
- (2) みんながゴール型のゲームを楽しめる規則を選んだり、自分の動きの課題に合った練習を「空いている位置への移動」などの観点を基に工夫したりすることができる。
- (3) ボールを受けて体をゴールに向けたたり、ボールを受け易い位置に移動したりする動きを身に付け、ゴール型のゲームを行うことができる。

4 指導計画（全7時間）

時間	1・2	3・4（本時）・5	6・7
過程	つかむ・見通す	つかむ・見通す・挑戦する・工夫する	生かす
課題の追究過程	タグラグビーに挑戦して、学習計画を立てよう。 ・動きの理解 ・規則の理解 よい動きと自分の動きを比較し課題を見付けよう。 課題の把握 ・空間移動 ・投捕の動き	みんながゴールゾーンに走り込めるようになる。 【ドリルゲーム】 キャッチボール 渡り鳥パス など 【規則の工夫】 ・初得点のボーナス ・守備者の制限 【動くイメージを基にした伝え合い】 比較・関係付け ・体の向き ・走り込む方向 攻め方の工夫 ・おとり作戦 ・クロス移動作戦	全員が得点できるタグラグビー大会をしよう。 ゴール型のゲームの楽しさや動きができる喜びを味わい、運動へ挑戦し続ける姿
学習内容	り組む。 ○学習に進んで取 してゲームを行う。 ○はじめの規則を理解 けてゲームを行う。 ○場の安全に気を付 を把握する。 ○動きや規則の課題 を把握する。	○用具の準備や片付 けを協力して行う。 ○ボールを受け易 い位置に移動する。 ○チームで簡単な 作戦を立てる。	○チーム全員が得 点できるように、協 力してゲームを行 う。 ○どのよう な工夫が自分 の動きを高めた かを振り返る。
楽しさの深まり	○タグラグビーの行 方を 知る 楽しさ	○変更した規則でタ グラグビーを行 う楽し さ ○みんながタグラ グビーを楽し むた めに、規則を工夫 する 楽しさ	○みんなが上手に なったことを感 じ 楽しむ ○どのよう な工夫が自分 の動きを高めた かを振り返る。

5 本 時 (4 / 7)

(1) 目 標

パスがつながりチーム全員がゴールゾーンに走り込めるようになるために、ボールを持っていない人がどのように動けばよいかをチームで工夫することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを目的とした学び合いが重要だと考える。そこで、「パスがあまりつながらない」という課題場面を絵図で提示し、「ボールを持っていない人はどこに行けばよいか」と問う。そして、パスがうまくつながった動きとそうではない動きを、ボールを持っていない人の位置で比較させ、ボール保持者とボールを持っていない人が、どのように動いていたかを話し合わせる。さらに、各チームで簡単な作戦を立てさせ、ゲームを行わせる。

(3) 実 際

	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・見通す	1 準備運動をする。 ○ 附属体操 ○ ドリルゲーム ・ キャッチボール ・ 渡り鳥パス	(分) 5	○ 移動やパスなどの際に負担のかかる手首や足首をほぐしたり、体力を高めたりする附属体操をする。 ○ ボールキャッチなどのボールを保持する動きを高めるために、ドリルゲームを行わせる。
	2 本時のめあてについて話し合う。 どこに行けばパスが受けやすいのだろう。	5	○ めあてをもち、チームで協力して学習を進めさせるために、「パスがあまりつながらない」という前時の課題を確認し、めあてを話し合わせる。
挑戦する・工夫する	3 練習の場を工夫する。 〔話し合い〕 パスがつながり、効率的にゴールに近づくことができる。(目指す姿) ボールを体の正面で受けると捕りやすい(既習) パスがあまりつながらない(課題) ボールを持っていない人がボールを持っている人と離れないように移動すればいいかもしれないね。 〔練習〕 2対1 観点：ボールを受ける位置 ボール保持者と一定の距離を保つ。 どこでパスを受けるかで得点チャンスが違うんだね。パスの受け方を工夫すればもっと得点が増えそうだ。	15	○ パスがあまりつながらない要因を解明させるために、「ボールを持っていない人はどこに行けばよいか」と問い、ボールを持たない人の動きに焦点化する。 ○ 課題を解決するために、課題となる局面を平面模型で提示し、「ボールを持っていない人はどこに行けばよいか」と問い、パスがつながった場面とそうでない場面を、ボールを受けた位置で比較させ、チームで話し合わせる。 ○ ボール保持者とボールを持っていない人の距離に着目させながら、練習を行わせる。 ○ パスをつなぎ得点機会を増やす動きのイメージを追加・修正させるために、各チームでボール保持者とボールを持っていない人の動きを、パスを受ける位置を観点に話し合わせ、攻め方を工夫させる。
	4 メインゲームをする。 クロス移動作戦 手渡しできるくらいもっと近づいて!	15	○ 自分や友達の動きの高まりを実感させるために、ボールを持っていない人が、ボール保持者の動きに合わせ、パスを受けやすい位置に移動した動きを価値付ける。
生かす	5 整理運動をする。 6 本時の学習を振り返り、次時の学習への意欲を高める。 ボールを持っている人とはなれすぎないように移動するとパスが受けやすい。 大会までに、いろんな作戦を考えたい。	5	○ 子どもたちの課題を連続・発展させるために、いろいろな作戦を試したいという意見を価値付ける。